

2024 年の高温条件下における「ふじ」着色系統の特徴

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－リンゴ－生理・生態

2 担当者名

穴澤拓哉、瓜生武司、尾形亜希子、高橋堯之、佐藤寛人、岡田初彦

3 要旨

近年の温暖化により、リンゴ「ふじ」では着色不良や果肉硬度の低下、蜜入り不良が問題となっている。そこで、高温条件で経過した 2024 年の「ふじ」の着色系統について果実品質を調査したところ、「コスモふじ」、「極ふじ」、「宮美ふじ」で着色が優れる傾向が見られた。

(1) マルバカイドウ台木では「コスモふじ」、M.26 台木では「極ふじ」、「宮美ふじ」が他の系統に比べて着色が良く、果皮中アントシアニン含量が高い傾向が認められた (表 1、図 1)。

(2) 蜜入り指数は、大きな差はないものの、「コスモふじ」、「極ふじ」で高い傾向が見られた。(表 1)。

表 1 「ふじ」着色系統の果実品質の比較 (2024 年)

系統	台木	収穫盛	果重 (g)	縞の有無	アントシアニン含量 ($\mu\text{g}/\text{cm}^2$)	蜜入り 指数	硬度 (lbs.)	糖度 ($^{\circ}\text{Brix}$)
宮美ふじ	M. 26	11月20日	456.8	不明瞭	1.56	1.5	12.8	16.7
極ふじ	M. 26	11月24日	415.6	明瞭	1.60	1.7	12.0	16.0
三島ふじ	マルバ	11月10日	340.0	明瞭	0.92	1.4	12.2	15.7
2001年	マルバ	11月15日	393.1	明瞭	1.23	1.5	13.3	16.8
コスモふじ	マルバ	11月29日	437.4	不明瞭	1.89	1.8	11.5	16.9
普通ふじ	マルバ	11月18日	353.8	明瞭	0.88	1.2	11.6	16.3

※糖度、蜜入りは光センサー計測値



図 1 収穫果実の比較

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3～7 年度

(2) 研究課題名 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料 なし